

## 可視赤外放射計 (AHI) を用いた解析のための気体吸収テーブルと 大気放射伝達パッケージの開発

関口美保・岩淵弘信・永尾 隆・中島映至

### 要旨

相関  $k$ -分布法と、その積分点の位置と重みの決定に最適化手法を用いた、静止気象衛星ひまわり 8,9 号に搭載されている可視赤外放射計 (AHI) 向けの気体吸収テーブルを開発した。また、このテーブルと AHI のバンド情報などを、多目的大気放射伝達パッケージの **Rstar** に導入し、衛星とバンド番号を指定するだけで波長範囲や応答関数などが簡単に設定できるように更新した。最適化相関  $k$ -分布法を採用することで高速かつ高精度な計算が可能となり、初心者の **Rstar** の利用や比較が容易になった。本テーブルを用いた雲の再解析実験においては、積分点数の多寡により精度が大きく影響されることが示された。